

●○● 受講確認票 ●○●

令和 年度遺伝子組換え実験安全教育訓練講習会 (受講年月日：令和 年 月 日)

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____

内線番号 _____

※学生の場合は、職名に学年を記入してください。

項 目	講 師 ・ 協 力	講習会の内容について 次のチェックから評価 してください。
遺伝子組換え実験安全 教育訓練講習会	講師：遺伝子組換え実験安全委員会 花田俊勝 協力：遺伝子研究安全管理協議会	<input type="checkbox"/> 1:分かりにくい <input type="checkbox"/> 2:理解できた <input type="checkbox"/> 3:よく理解できた
次の問いに回答してください。		回 答
問 1	組換え微生物の入った試験管をラックに立ててそのまま建物外に持ち出してよい。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 2	組換え生物（微生物、動物、植物）を廃棄する場合、生物種に応じた不活化（滅菌、安楽死、破碎など）をしなければならない。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 3	マウス●●遺伝子を持った組換え大腸菌の場合、宿主は大腸菌であり、核酸供与体はマウスである。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 4	人の出入りが多い P1 実験室では、廊下側の扉を開けたままで実験してよい。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 5	P1 実験室ではない保管専用室にある冷蔵庫に、組換え植物の種を保管してよい。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 6	いかなる自然条件下でも個体として生育する能力を有していない植物プロトプラストのような培養細胞は組換え生物には当たらない。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 7	蛍光遺伝子を導入したがん細胞を通常のマウス皮下に移植した場合、がん細胞が次世代に引き継がれることはないので移植マウスを組換え動物として扱わなくてよい。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 8	少しこぼれた組換え大腸菌をふき取ったペーパータオルに対して、十分な 70% エタノールを噴霧することで不活化処理できる。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 9	オートクレーブは同じ建物内にあれば、P2 や P2A 実験室内になくともよい。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 10	他機関で大臣確認された組換え生物を持ち込む場合、本学からの大臣確認申請をしなくてよい。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
問 11	組換え生物を他機関に分与する場合は、組換え生物に関する所定の情報を提供することになっている。	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

※ 受講後は研究推進課研究協力第二係へ提出ください。